

**専攻の区分「土木工学」の修得単位の審査の基準の改正について**  
**平成 28 年度から、専攻区分「土木工学」の修得単位の審査の基準を改正します。改正後の審査基準による学位授与申請の受付は、平成 28 年度 4 月期からとなりますので注意してください。**

専攻の区分	専攻分野の名称
<b>土木工学</b>	<b>工 学</b>

土木工学は、台風や地震などの厳しい自然条件下にあって、人々の暮らしを守るとともに、道路、橋、港、河川など私達の社会・経済の基礎となる社会基盤を整備するための中心的な技術・学問分野である。調和のとれた良質な生活空間を有し、持続可能な社会を形成するためには、構造、水工、土質、施工などのハードな分野に加え、環境、計画、交通、景観などのソフトな分野の知識も必要とされ、土木工学に含まれる領域はかなり広い。このため、学士レベルでは基礎的な知識をバランス良く、出来るだけ幅広く学ぶことが求められる。また、実験・実習により、講義で得た知識を実際に確認することも大切である。

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位 (62 単位以上)

専攻に係る授業科目の区分	専門科目 (40 単位以上)	
	<b>【A群 (講義・演習科目)】 (30 単位以上)</b> ○構造・材料に関する科目 ○水工・環境に関する科目 ○土質・施工に関する科目 ○計画・交通に関する科目 ○都市・景観に関する科目 <b>【B群 (実験・実習科目)】 (6 単位以上)</b> ○土木工学に関する実験・実習科目 (ただし、上記の「都市・景観に関する科目」の区分の単位数が15単位以上の場合は、その区分の演習科目を実験・実習科目に替えることができる)	<u>左のA群の区分のうちから3区分以上にわたること</u>
	関連科目 (4 単位以上)	
	◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	

■ 専門科目の例 ■

【A群 (講義・演習科目)】

○構造・材料に関する科目

材料力学、構造力学、建設材料学、構造解析、応用振動学、コンクリート工学、鉄筋コンクリート工学、コンクリート構造、鋼構造、橋工学、設計論、耐震工学、設計演習など

○水工・環境に関する科目

流体力学、水理学、水文学、河川工学、海岸工学、水防災工学、水資源工学、衛生工学、水処理学、エネルギー計画、環境工学、防災工学、地球環境工学、エネルギー土木工学など

○土質・施工に関する科目

土質力学、動土質力学、基礎工学、地盤工学、地盤環境工学、岩盤力学、土木施工、土木地質学、トンネル工学、防災工学、土木法規、コンストラクション・マネジメントなど

○計画・交通に関する科目

数理計画理論、公共投資・政策論、交通計画、交通工学、道路工学、鉄道工学、港湾・空港工学、測量学、土木史など

○都市・景観に関する科目

都市地域計画、地域計画、都市計画、国土計画、都市交通計画、地区計画、都市環境工学、都市安全工学、都市施設保全、都市史、景観工学、CADシステム、地理情報システム、地図情報処理、都市経営、不動産学など

【B群 (実験・実習科目)】

○土木工学に関する実験・実習科目